

方々は皆こころ良く協力し、会の設立以前よりロータリーの標語たる親睦の見本を見せて呉れました。

特に八亀広蔵氏は「毎週金曜日に出席するのが楽しみだよ」とロータリーの権化みたいな言葉を常に口にされていましたし、当時、ゴルフ場常務理事だった直居重雄氏にロータリーも全面的協力をおしませず、バター練習場で全員パターの競技会をしたり、食堂で中村ガバナーを囲んで「手に手に」を歌い合っただけでなく、昨日の事の如く目に浮かびます。

チャーター伝達式の後でしたか湯浅ガバナー御夫妻の御供をして箱根での道々おやさしいお話を伺ったのも楽しい思い出の一コマです。

当時のロータリーは良かった、とても身近でした。しかし公式訪問は身の引きしまる思いでいつも緊張の連続でした。

柳瀬省吾氏、白山源三郎氏、入江直祐氏等の

おなつかしい温容も心の奥底に焼き付いています。

出来ませう事でしたらもう一度お目にかかり三十分を共に喜んで頂けたらどんなに嬉しい事でしょうか、三十年、よくここまで来たものです。

肩にあまり力が入らなかったのが良かったのでしょうか。

何となく続き、いつの間にか時がたって行きました。之といった評価も無く路傍の雑草の如く人の眼にもとまらず、ささやかに生き長らえて来ました。之からロータリーは何処へ行くのでしょうか、色々の道が模索されている様です。

しかし親睦と奉仕を使命としているロータリーはあの道この道と迷って行き着くところは結局一つの様です。

みんな仲よく世のため、人のためにでしょう。



創立総会時のスナップ

何故か湯浅ガバナーの席に宮坂特別代表が座っておられる。立っておられるのが柳瀬さんその左が中村ガバナー、左端が天野初代会長。



創立30周年を迎えて

加藤 福松

初代幹事を命ぜられたばかりに、創立何年だから、何周年だから等々、その度に何か思いを書けと云われ今回又々30周年だから初代幹事として記念誌に何か書けとのことだが、書くことは何時も同じような下手な内容しか書けないことになるわけです。

しかし、何周年だ、記念誌だと云っているうちに湯河原RCもとうとう30年になってしまった、私も年をとったし30年の間には色々なこともあったようだったが、漠然として記憶もうすれてしまっています。

会員がそれぞれ立派な指導的立場の皆様ばかりなので、クラブも年々成長、充実し、RC活動を行いつつ常に和気あいあいのうちに30年間を楽しい例会を通じておつきあいさせて戴いているのは大変な仕合せだと常々感謝で一ぱいです。

今まで幾度も書いたけどチャーターナイトの準備に会場係として連日、連夜諸計画を手伝って下すった八亀（昌）、稲葉の両名に対する感謝の気持（勿論それぞれの部署で全会員が協力一致されたからこそはあるけれど）とチャーターナイトに全国から参加された会員数は一千人を越え、当時クラブの増加が多数あり、従ってチャーターナイトも各地で行われていたけど当クラブの参加人員としては日本一と参加者から大拍手を受けたのは特に忘れない。

勿論これは天野初代会長の知名度の高さのおかげだったことは当然特筆すべきことであります。

当クラブも30年を迎え、益々地域社会の発展に努力しなければならないが幸にも有能な会員揃いであり、今後益々の発展を祈って止みません。



祝 辞

国際ロータリー
第2780地区ガバナー 山道 昭彦

このたび、湯河原ロータリークラブが創立30周年を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。地区内61クラブのロータリアンを代表して、心からお祝い申し上げます。湯河原ロータリークラブは、1962年（昭和37年）4月20日、小田原ロータリークラブをスポンサークラブとし、宮坂寛治郎氏を特別代表として、チャーターメンバー24名で創立されました。当時はまだ東京都並びに神奈川、千葉、埼玉、山梨の一都四県と沖縄を一地区とした第358地区の時代で、ガバナーは東京北ロータリークラブの中村米平氏でありました。

同年5月7日に、早くも国際ロータリーより正式に加盟認証されました。爾来今日まで、奉仕の理想を高く掲げられて奉仕活動に邁進してこられ、輝かしい数々の実績を挙げてこられました。これは歴代会長さんの卓越したご指導と会員の皆様の多年に亘る奉仕に対する熱意とご努力の賜であり、ガバナーとして衷心より敬意を表します。

私は昨年9月13日、ガバナーとして貴クラブに公式訪問でお伺い致しましたが、クラブが大変暖かい家庭的雰囲気に入れられ、今年度のサブーR. I. 会長のテーマ“自分を越えた眼を”クラブの全員が実践に努めておられ、各奉仕部門に亘り、地域に密着した活発な奉仕活動を展開しておられる姿に接し、大変感銘を受けました。

湯河原ロータリークラブが創立されて30年、時代も昭和から平成へと大きく変わり増した。貴クラブがこの30年間に築きあげてこられた輝かしい歴史と伝統を、この機会に更めて確認し、今後更に大きく飛躍されることを心から願って止みません。そして地域社会の中に更に一層溶けこみ、地域社会のために、今後も引続き貢献して行かれることを期待しております。

貴クラブの今後益々のご発展と会員並びにご家族の皆様方の益々のご健勝とご活躍を心から祈念し、貴クラブ創立30周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



湯河原ロータリークラブ 創立30周年に寄せて

元国際ロータリー副会長 湯 浅 恭 三

湯河原ロータリークラブ創立30周年をお迎えになります由、本当におめでたいことであり、心よりお祝い申し上げます。貴クラブの創立は、私の前のガバナーであった中村米平氏の時代の1962年（昭和37年）4月20日であり、R. I. の承認は、同年5月7日のことであります。チャーターの伝達式は、1963年3月29日で、私とその年のガバナーとしてその式に出席し、多くの地区内外のロータリアンの御出席を得て、初代会長の天野弘之氏にお渡し申し上げました。その後、湯河原ロータリークラブは、会員の皆様のお力によって順調に成長し、今日は創立30周年をお迎えになられ、誠におめでたいことと存じます。多くの会員を得て立派なロータリークラブとして湯河原はもちろん各方面においてロータリアンとして、またロータリークラブとして奉仕活動を積極的にお勧めになっていることに対し、心からのお祝いと感謝をお贈り致します。

私が、ガバナーであった1963年には、国際ロータリー理事会が、「ロータリーの根本的特色」を決定し、ロータリーとはこのような団体であると説明しており、それがポール・ハリスの作ったロータリーの奉仕を基とする特徴のある団体の精神を明らかにしております。その後ロータリークラブの拡大発展に伴い、また世界的な奉仕活動をする団体という考え方が強くなって、

現在は、ロータリークラブがもっと世界的（グローバル）な奉仕活動のできる団体を必要とし、その奉仕活動の根本は個人の考えから成り立っておりますが、現在のロータリークラブはもっと広い意味の奉仕活動を目指して進んで行くことを考えて行かねばならない時勢となっております。

湯河原ロータリークラブ皆様もこのような時代のロータリアンとして、ますます盛んな奉仕活動に励まれますようにお祈り申し上げます。

最近のヨーロッパを中心とする世界の情勢の変化は激動といってもよい、思いがけないことが次々と起こっています。ロータリーの世界を見ても、ヨーロッパを始めアジアにおいて次々と新しい国々にロータリークラブが設立されました。また、婦人のロータリアンはもちろん、婦人だけのロータリークラブさえ出来ました。このような時期に際して、湯河原ロータリークラブも、ロータリークラブの持つ大きな働きをその地域から始めて周辺の地域はもちろん、国際的にも広めていただきたいものです。湯河原ロータリークラブの創立時にガバナーでありました私は、1963年4月15日のガバナー月信（第11月信）に次のように書いております。『ロータリーは特権階級の昼食会であるとか、ロータリーは社会事業に対する寄付団体だとかいわれることがよくあると聞きます。私達ロータリア

ンは、もっと地域社会の人々にロータリーを認識してもらう必要があります。ロータリーの性格は、ポール・ハリス（Paul Harris）の時から根本的には変更はありませんが、社会の発達と時勢の進展により、それに応じた成長を必要とします。』

環境の保護、自然環境の保全など、近年グローバルな問題が論ぜられ、活動を迫られています。その根本にある精神はロータリー各員の中から湧き出て来るサービス精神だと考えます。満30周年を記念して今一度ロータリーの根本であるサービスの精神について考えてみましょう。



湯浅恭三ガバナーより認承状を伝達される天野初代会長（後姿）



湯河原ロータリークラブ 30周年をお祝いして

岩崎 裕 倅

湯河原ロータリークラブの創立30周年を心から喜びお祝い申し上げます。

湯河原ロータリークラブは私の昭和35年から昭和54年にかけて25のクラブ創立を手がけた中で最もよく均整のとれた地域に密着したロータリークラブらしいクラブであると時の中村米平ガバナーも褒めて創立総会以来会ふ度に他の古いクラブへ公式訪問の度に話に出たクラブの30周年中村米平ガバナーが生きて居られたら喜んで出席されたと思います湯河原クラブの伝達式には国際的に日本を代表するような方々が大勢出席された他にあまり例の無い伝達式私には実に印象深い伝達式の想出でありました。これは初代会長の天野弘之氏の勝れた指導によるものと創立会員が純粋にロータリーを理解し奉仕しようと努力した結果が伝統となり30年前に中村米平ガバナーと私がこのクラブは立派なクラブになると話合った通り充実したロータリークラブとして30周年を迎えたことを私は喜んで今印象深く頭にうかべて居ります。

さて小田原クラブが箱根と湯河原にロータリークラブを創立すると決めたのは昭和36年の8月であったと思います私は早く特別代表を推薦するよう話すと今協議中と等々6ヶ月を過ぎた太閤の小田原攻めの時の有名な小田原評定が今も生きているのかなと少々呆れて天野さんに私が思切って指名しましょうかと話し例会に出席し

て会長に指名の話をするとは是非お願いします。とのことで次の例会を総会に切替えて私が指名することを諮ると全員が賛成して箱根に今井徳衛門君、湯河原に宮坂寛治郎君を指名して半年に及ぶ小田原評定もおわり湯河原ロータリークラブは4月20日閑静な天野屋の会議室でウグイスの鳴く声と小川のせせらぎの音を聞きながら私が関係するロータリーの会合はかならず出席される柳瀬PGも出て楽しい創立総会が済み天野会長、加藤福松幹事で湯河原ロータリークラブでは創立された・例会場は信用金庫の会議室私が出席する度にSAAの苦心の食事日本そば・大きなトンカツ・天どん・楽しい食事であった。加藤福松幹事の円滑な事務処理天野会長の指導はロータリークラブの典型とも言える例会の運営であった。

地域に適したクラブ肥大化せず常に均整がとれロータリーの組織の何れの分野にもよく奉仕し、然も出席はよく100%を維持しロータリーの言う奉仕の理想を實踐して30周年をむかえたことに敬意を表します。

何年かご無沙汰して居りますので創立前後の想出になりました。

天野初代会長、加藤福松初代幹事はじめ会員諸君がご健康でロータリーの発展につくされることを祈ります。



「奉仕の輪」の更なる広がり

小田原ロータリークラブ会長 土屋 賢太郎

湯河原ロータリークラブ創立三十周年、誠に
お目出とうございます。心よりお慶び申し上
げます。

三十年前、小田原クラブのテリトリーであり
ました湯河原地区に当時会員であられた天野様
始め、有志の方々が相集い、新クラブ設立の構
想が煮詰まり、小田原クラブにスポンサーのお
話があったと伺っておりますが、それから早や
三十年、今や中堅クラブとしても感慨一入のも
のがございます。

当時はロータリーの存在、活動も一般市民に
は未だ馴じみの薄いものでしたが、年と共に
「奉仕の輪」が広がり、ロータリーの理念が地
域社会に反映した結果、ロータリーに対する市
民の期待も大きくなりました。

私は湯河原クラブ二十周年記念式典に当時小
田原クラブ幹事としてお招きいただいた折、十
周年記念として植樹したもみじが成長したとこ
ろをご案内いただきましたが、今回、再び会長

としてお祝いを申し上げる機会を得ましたこと
に、貴クラブとのご縁の深さを感じますと共に、
もみじの成長と同じく貴クラブのご発展を心よ
り祝福申し上げる次第であります。

近年、経済優先の考えから「心」が失われつ
つ、あることが大きな問題になっております。

心を失った経済発展は真の幸福をもたらすも
のではありません。特に日本ではその弊害が懸
念される昨今ですが、このような時代こそ、ロー
タリーの目指す奉仕の行動の実現は極めて重要
であります。三十年前、当時のR. I会長ジョ
セフA・エビー氏はターゲットとして 一、
行動に努めよ 二、理解に途を求めよ 三、指
導力を高めよ、と述べられました。正に今日
の世界、日本に当てはまる名言であります。

私は湯河原クラブが創立三十周年を契機とし
まして奉仕に向け、なお一層のご活躍をご期待
申し上げますと共に、益々のご発展を祈念して
お祝のご挨拶いたします。



湯河原ロータリークラブ 創立30周年を祝して

湯河原南ロータリークラブ会長 常 盤 章 夫

湯河原ロータリークラブが創立30周年を迎えられましたことを、心から御祝い申し上げます。貴クラブ創立以来、今日に至まで、諸先輩方そして会員の皆様の御努力による益々の御繁栄に対して敬意を表するものであります。

顧みますと、昭和45年初め、湯河原南ロータリークラブ創立の動きがアリ、チャーターメンバーとして推せんを頂き、入会のお誘いを受けました。小生若輩の身でありロータリーとは何ぞや、本当に右も左もわからない、なんとも不安なものであります。

入会を認められ、湯河原ロータリークラブの例会に、ゲストとして初めて出席させて頂いた時の光景は、今だ克明に思い起こされます。

例会場は湯河原観光会館の大会議室で、吉光会員が会長、或いは幹事であったと思います。

当日の卓話者は杉山實さんであり、詩吟について語られまして、最後に一曲吟じられました。吟題は有名な詩吟で偶成であったように記憶しております。私は、初めての例会出席でロータリーの雰囲気に触れたのであります。

そして、ビジター紹介時に、クラブ例会出席1000人目のビジターとして、小梅堂のきび餅を頂いて帰ったことは今だに忘れられない思い出

となっております。

我々湯河原南ロータリークラブは、創立以来貴クラブの運営、活動等を手本として参りました。

お蔭様で大過なく20周年を迎えることができ、ささやかではありましたが、記念事業の数々を実施することができました。これも偏に貴クラブ会員の皆様方の御協力の賜物と感謝致しております。貴クラブは、30年の永きにわたる年月を着実にあゆみ、地域に密着してのロータリー活動は、我々ロータリアンに対してその範を示すものであり、このことは誰れもが認めるものであります。国際ロータリーの時代の流れとともに大きく変わろうとしております。しかし、いかに変わってゆこうとも我々ロータリーの奉仕は不変であります。

いつも自分自身の足元を見つめて、身近の奉仕を優先することが第一と思うのであります。

記念すべき30周年を大きな節目として、今後とも地域社会に密着し、求められ、そして愛されるロータリークラブとして、益々御発展されますことを御祈念申し上げまして、御祝いの言葉と致します。



30周年を顧みて

チャーターメンバー 八 亀 昌 美

今から30年前、初代天野会長の最初の記念すべき点鐘で、わが湯河原ロータリークラブが24名のチャーターメンバーにより世界のRCの仲間入りをした。その時私は小田原青年会議所理事長経験者として入会をさせて戴いた時が38才。そしてやがて古稀を迎えようとしているのである。光陰矢の如し、という言葉は今しみじみと思いうかべております。

創立当初、私はロータリークラブについて何の知識もないのに、会場監督というお役を仰せつかり大変苦労したものである。例会場が観光会館で、時には西湘信用金庫でもあり、食事も店屋物をとらざるを得なかった。ところが、お店が所謂「湯河原時間」で仲々時間通りに間に合わなかったり、当日の出席人員の把握が思うにまかせず泣かされたものである。

そして、10年目の会長の時、創立10周年記念行事として、観光の一助にもと「山もみじ」の植樹を大観山の一角におおよそ4000本、行ったのであるが、この木は育ちの遅い木なのであろうか、茅の中にもぐって居るので、その後20年間下草刈りを毎年毎年夏の炎天下会員全員で行っています。これは当クラブの一番有意義な一大社会奉仕の行事だと云われるが、私としては何

だか皆さんに御迷惑をお掛けしているのではないかと考えている次第です。今では「もみじ」もクラブの発展と共に紅葉らしくなって来て感慨無量なものがあります。

それから第二十代及川会長の折りは、創立20周年記念行事実行委員長に就き、天野さん御寄贈の「みもぎアカシア」の記念植樹を、新設湯河原高校の庭園に行い、今ではそれもこれ又クラブの発展を思わせる様に、又何回かの卒業生の成長と共に、すくすくと伸びて居り、やがて湯河原高校のシンボルとなるであろうと思います。

又今年の30周年には記念事業小委員長として、会員の御理解御協力を得て、温泉場商店街に「椿」と「山茶花」の街路樹を鉢植方式で30周年にちなみ30鉢を記念植樹することとしました。椿は吾が町の「町の花」であり、吾がクラブのバナーのデザインにもつかわれている花である。この街路樹も記念品の「椿の記念樹」と共に、クラブの発展と共に大きく育っていく事を夢みつつ「奉仕の理想」実現に精進しようと心新たにしている今日此の頃であります。ロータリーの過ぎし30年を振り返ってみるとよくよく私は植樹に縁のある男であると思います。